

「令和4年度 甘味資源作物生産性向上事業」ロジックモデル

事業を行う背景 (現状)、解決すべき問題・課題	<p>(事業を実施する背景 (現状))</p> <p>甘味資源作物は、台風常襲地帯の沖縄県、鹿児島県等の基幹作物であり、地場産業である製糖工場等と共に地域経済と地域雇用を支える重要な作物である中、機械化の遅れや慢性的な労働力不足が顕在化し、単収、品質の低下、作付面積の減少が問題となっている。また、製糖工場においては、働き方改革関連法に即して猶予されている期間内、長時間労働を確実に是正する必要。</p> <p>(解決すべき問題・課題)</p> <p>①さとうきびについては、近年、自然災害が増加傾向にあることに加え、高齢化により農家戸数が減少する一方で規模拡大が進みつつあるが、慢性的な労働力不足、収穫時期と作業時期が競合する植付・株出等の作業に必要な機械化が進んでおらず、適期に適正な栽培管理ができていないことから、単収が低迷。単収の低迷を改善するためには、適期適切な栽培管理が重要であるものの、労働力が不足する現状においては、作業受託組織等の産地全体で労働力不足に対応した生産体制を早急に育成強化すること等、②かんしょについては、H30のサツマイモ基腐病の発生以降、単収及び作付面積が減少、③製糖工場については、製糖期間が収穫時期に限られ、離島等の立地条件から慢性的な労働力不足となり、長時間労働が常態化している中、働き方改革の猶予期間内に長時間労働の確実な是正が必要なこと、省力化に資する施設整備等による労働生産性向上、④いもでん粉工場については、操業期間が収穫時期に限られていることから労働者が期間雇用となり、慢性的に期間雇用の労働者の確保が困難となっており、製造工程における非効率的な作業の改善、が課題となっている。</p>
	<p>現状・課題を示す指標</p> <p>①さとうきび：農家戸数 (H23_26千戸→R2_19千戸)、1戸当たり収穫面積 (H23_88a→R2_116a)、単収 (H13～H22平均_6,173kg/10a→H23～R2平均_5,400kg)、②かんしょ：生産量 (H29_81万t→R2_69万t)、③分みつ糖工場：一人当たり平均時間外労働108時間 (R2)、④いもでん粉工場：でん粉原料いも生産量 (H21_98万トン→R2_76万トン)</p>

インプット (予算)	予算額 (百万円) R 4 : 2,016 (事業開始年度：R4、終了予定年度：R7)
------------	---

アクティビティ (事業概要)	<p>①さとうきびについて、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の産地を対象に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働力不足に対応した作業受託組織の育成強化、 ・自然災害リスクに対応した作業・品種への転換や土づくり等の適正栽培管理の推進等、島毎の実情に応じた生産性向上の取組を支援 	<p>②かんしょについて、サツマイモ基腐病の被害を受けた者を対象に次期作への影響を最小限にするための取組 (ほ場条件の改善等) や、</p> <p>でん粉原料用かんしょの生産者を対象に生産性向上を図るための取組 (多収新品種への転換等) を実施</p>	<p>③分みつ糖工場の働き方改革の達成に向け、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の取組地区における事業者等を対象に、省力化に資する施設整備等を支援</p>	<p>④いもでん粉工場について、鹿児島県等の取組地区における事業者等を対象に、労働力不足に対応した労働生産性向上に必要な施設等の整備</p>
----------------	---	--	---	--

アウトプット (活動実績)	取組地区数 【R4見込み：16地区程度を想定 (鹿児島県南西諸島、沖縄)】	取組地区数 【R4見込み：20地区程度を想定 (宮崎、鹿児島県等)】	取組地区数 【R4見込み：14地区程度を想定 (鹿児島県南西諸島、沖縄)】	取組地区数 【R4見込み：6地区程度を想定 (鹿児島県等)】
---------------	--	---------------------------------------	--	-----------------------------------

アウトカム (成果目標)	<p>【短期】</p> <p>取組地区における単収の向上・安定化、10a当たり労働時間の削減、収穫面積の増加</p> <p>定量的な指標：取組地区の直近データと比較し、株出栽培の単収を5%以上増加、労働時間を10%以上削減、収穫面積を1%以上増加</p>	<p>【短期】</p> <p>取組地区におけるサツマイモ基腐病発生面積の減少</p> <p>定量的な指標：取組地区の直近データと比較し、サツマイモ基腐病発生面積を10%削減</p>	<p>【短期】</p> <p>令和6年3月までに働き方改革関連法に即した長時間労働を是正</p> <p>定量的な指標：(令和5年度)分みつ糖工場の1人当たり時間外労働を複数月80時間以内に抑制</p>	<p>【短期】</p> <p>事業に取り組んだいもでん粉工場における労働生産性の向上</p> <p>定量的な指標：事業に取り組んだいもでん粉工場の直近データと比較し、いもでん粉工場の労働生産性が2%向上</p>
--------------	---	--	--	---

アウトカム (成果目標)	<p>【中期】</p> <p>産地における単収の向上・安定化、10a当たり労働時間の削減、収穫面積の増加</p> <p>定量的な指標：(令和7年度)さとうきびの単収を6,230kg/10aに向上 (R2_5,940kg/10a)、労働時間を30.9時間/10aに削減 (R2_33.9時間/10a)、収穫面積を24,600haに増加 (R2_22,500ha)</p>	<p>【中期】</p> <p>取組地区におけるサツマイモ基腐病発生ほ場の単収を回復し、単収を向上</p> <p>定量的な指標：取組地区の直近データと比較し、かんしょの10a当たり収量を2%増加</p>	<p>【中期】</p> <p>分みつ糖工場の労働生産性を向上</p> <p>定量的な指標：直近データと比較し、分みつ糖工場の労働生産性が2%向上</p>	<p>【中期】</p> <p>いもでん粉工場の製品生産の効率化の進展</p> <p>定量的な指標：直近データと比較し、いもでん粉工場の労働生産性の向上により、製品生産量が2%増加</p>
--------------	--	--	--	---

アウトカム (成果目標)	<p>【長期】</p> <p>生産量の高位安定化</p> <p>定量的な指標：(令和12年度)さとうきびの生産量を153万tに安定化 (R2_134万t)</p>	<p>【長期】</p> <p>かんしょの生産量の増加</p> <p>定量的な指標：(令和7年度)宮崎県及び鹿児島県のかんしょの生産量を平年並みの生産量水準 (39万t) に増加 (R2_28万t)</p>	<p>【長期】</p> <p>分みつ糖工場の経営安定化</p> <p>定量的な指標：分みつ糖工場の原料当たりの製造コスト削減 (年0.34%の合理化)</p>	<p>【長期】</p> <p>いもでん粉工場の経営安定化</p> <p>定量的な指標：いもでん粉工場の原料当たりの製造コスト削減 (年0.39%の合理化)</p>
--------------	---	--	---	---

インパクト	高齢化と慢性的な労働力不足の中、不測の事態においても、甘味資源作物の生産継続及び安定供給を可能とする産地を実現
-------	---